

〔 横浜市陶芸センター 〕 令和元年度業務報告及び収支決算

〔 シンリュウ株式会社 〕

* 文中の事業欄において、 ●：主催事業 ○：共催事業
* 文中の達成指標、達成状況欄において、 □：定量的指標 ■：定性的指標

1 施設の概要

施設名	横浜市陶芸センター
所在地	横浜市中区本牧三之谷 59-3
構造・規模	木造平屋建て及び登り窯 1 棟(別棟)
敷地・延床面積	延床面積 396 m ² 、 登り窯延床面積 60 m ²
開館日	平成 5 年 8 月

2 指定管理者

法人名	シンリュウ 株式会社
所在地	埼玉県朝霞市上内間木 514-2
代表者	小澤 忠
設立年月日	平成 2 年 4 月 26 日
指定期間	平成 28 年 4 月 1 日～令和 3 年 3 月 31 日

3 指定管理に係る業務総括

(1) 基本的な方針の総括

【指定管理中の使命】

横浜市陶芸センターの使命は、横浜市における作陶活動の拠点施設として、広く市民が陶芸に親しむ機会を提供するとともに、市民の作陶技術向上の支援を行うことにより、陶芸の普及を図ることです。加えて、陶芸を通じて、市民文化の振興及び文化芸術が持つ創造性を活かした魅力あるまちづくりに寄与することであり、この使命を達成するため以下五つの方針のもと運営を行いました。

① 陶芸の普及と市民の作陶技術向上を支援する

1 日体験教室、週末 3 日間講座、陶芸入門 5 日間講座、季節のやきもの教室、親子陶芸教室、手びねり教室、電動ロクロ教室、自由作陶教室、三溪園共催企画講座を開講し、陶芸の普及と市民の作陶技術向上を支援する取組を進めました。

② 市民の主体的な作陶活動を支援する。

電動ロクロ水挽き徹底教室、絵付け教室、チャレンジ教室、還元焼成講座、大物焼成講座、招待作家講座を開講し、市民の主体的な作陶活動を支援することができました。

③ 市内の公益的作陶活動を支援する。

市内小中学校、高等学校、特別支援学校、陶芸指導者のための研修講座、随時開催の団体教室を開

催し、作陶活動に関する疑問に対応し、市民の公益的作陶活動の支援に努めました。

④ 陶芸と市民とを結びつける場とする。

陶芸と市民を結びつける場として、陶芸祭での手びねり体験、電動ロクロ体験、楽焼絵付け体験、陶芸センター利用者の作陶展やバザー、手づくり抹茶茶碗の御点前など、陶芸を身近に感じられる企画を開催しました。

⑤ 陶芸センターに関する情報提供及び広報・プロモーション。

英語による案内チラシやテキストを作成し、外国人や近隣のインターナショナルスクール PTA 等に団体教室で対応しました。また、フェイスブックにて施設案内や、陶芸関係 Web サイトを活用した情報伝達、新聞折り込み、地域情報誌、SNS や各種メディアを活用した情報発信に努めました。

【業務取組みの基本的な考え方】

① 利用者へのサービスを、もっと向上する。

利用者アンケートから新しい釉薬 3 種類の導入、団体教室での卒園記念作品制作の要望の実現など柔軟に取り組むことが出来ました。

② 陶芸知識の基地化を、もっと推進する。

陶芸ライブラリーへの新図書追加補充、利用者、来館者を問わず利用できる貸し出し制度を引き続き整備しました。また、電話やホームページからの陶芸に関する質問・相談に対応し、開かれた施設作りを推進しました。

③ 地域にもっと開放する。

陶芸祭での町内商店会・三溪園・八聖殿、本牧市民公園との共催企画を実施しました。見学、来館者には随時対応し、各種講座、登り窯の説明、施設案内及び陶芸技術知識解説等、興味喚起することが出来ました。

④ 環境をもっと意識する。

本牧市民公園の中に位置し、三溪園に隣接した豊かな自然環境での作陶活動を、より多くの人に紹介するために、陶芸センター周辺の映像を SNS にアップし、新規利用者の興味の喚起につながるように努めました。

(2) 令和元年度の業務の方針及び達成目標の総括

【全体業務について】

今期 4 年目の事業運営は、陶芸を初めて体験される方や、週末の数日間を利用して作陶に係りたい方を対象に、気軽に体験できる新規講座（成形～削り～施釉まで）を企画しました。また新素材を導入し、透光性陶土で作るランプシェイドやテーブルウェア、新釉薬を使用した陶箱作りなど、時流に合わせたカラフルで明るい色調の作品を制作する講座を実施しました。ラグビーワールドカップやオリンピックに向けた陶アクセサリワークショップ等、インバウンドに備え、例年にない実験的講座開催の年となりました。加えて NHK 陶芸関連のドラマの影響により、新規の受講者も増加しました。

陶芸情報発信に関しては、陶芸知識、窯業機械メンテナンスの問い合わせや質問が、市内、県外から例年以上に増え、内容も多岐にわたりました。また、夏休み親子陶芸教室、一日体験教室（伝統古典釉薬）で配布しているテキストを、普段の施設内でも発布しました。常時利用されている利用

者も閲覧可能にし、利用者どうしのコミュニケーションツールとして活用を促しました。今年度後半は新型コロナウイルス感染拡大防止の影響により、利用者数の減少となりましたが、再開を望む予約が多数ありました。講座中止期間は教室内天井板張替工事（横浜市予算）や、窯業機械・施設設備の補修点検を実施し、普段出来ない小破修繕やメンテナンス、釉掛けスペースの拡張など、レイアウト変更による改善に努めました。

① 事業について

- ・体験型、基礎型、自主型、専門技能型、公益的作陶支援型の各教室について、アンケートや受講者からの感想を取り入れました。要望があった新釉薬3種類を導入し、2019 ラグビーワールドカップにむけた陶アクセサリ組立体験、新素材の透光性陶土を使用した講座は、利用者の興味を喚起する講座となりました。
- ・新規講座として週末3日間陶芸講座（成形、削り、施釉まで）と陶芸入門5日間講座（手びねり、電動ロクロ、削り、絵付け、施釉まで）を実施しました。
- ・陶芸祭では昨年度を上回る2,237人の来館がありました。期間中、本牧市民公園との共同企画「秋まつり」も同時開催しました。本牧市民公園の盆栽用植木と陶芸センター自家製植木鉢を持ち寄りミニ盆栽とし、バザー展示即売会を行いました。三溪園とは入場割引を実施し、近隣地域と連携した取り組みを企画しました。
- ・招待作家講座は磁土練継、胴継技法の人気作家、星野友幸氏を講師に迎え、大変活気のある講座となりました。

② 運営の総括

- ・年末年始休館、定期点検日、台風による臨時休館2日間、新型コロナウイルス感染拡大防止による講座中止32日間、年間353日間開館し、利用促進に努めました。
- ・貸室及び自主事業の利用者数は、新型コロナウイルス感染症拡大防止休講の影響により、今年度目標である年間16,533人を達成できませんでしたが、合わせて14,497人で、前年比（16,074人）90%となりました。
- ・利用者の利便性を図るため注文頻度の高い小道具類を常時ストックし、納入待ち時間待ちが解消されました。
- ・作陶台と釉薬掛けスペースのレイアウトを見直し、動線が大幅に改良されました。
- ・限りあるスペースを有効活用し、焼成スケジュール、在庫管理、業務分担、事務部門と指導部門の連絡調整をしながら、効率的な運営を行いました。

③ 管理の総括

- ・修繕が必要と思われる設備・備品や危険と思われる箇所を日常の見回り点検により洗い出し、高額修繕に備えました。施設内の蛍光灯の劣化交換を行いました。複数回の工賃節約のため、貸室の蛍光灯5台全て1回でLED照明に入れ替え、経費削減に努めました。天井板劣化による貼付工事は、横浜市の予算により実施し、永年の懸案も解消されました。
- ・建物及び登り窯周辺の公園環境を意識し、屋根の松葉清掃等、環境美化に努めました。
- ・汚泥は年2回排出、汚泥量調査を実施、適切な汚泥管理環境維持に努めました。

④ その他の総括

- ・日報、月報、業務計画書、業務報告書の作成・管理するとともに自己評価を行い、業務改善につとめました。法令の遵守、個人情報保護、情報公開について、適切に対応するとともに横浜市と

の連絡調整を蜜にし、円滑に業務を遂行しました。

4 業務の取組と達成状況

(1) 事業について

ア 陶芸の普及と市民の作陶技術向上の支援について

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容]	[達成状況]
①体験型教室の開催	①□一日体験手びねり、絵付け教室を年 10 日間開催する。目標利用者数 130 人 □一日電動ロクロ体験教室を年間 10 日間開催する。目標利用者数 150 人 □季節の焼き物講座を年 3 回開催する。目標利用者数 40 人 □一日伝統古典釉薬体験講座を年 6 回開催する。目標利用者数 60 人 □親子陶芸教室を年間 10 日間開催する。目標利用者数 320 人 □陶芸祭期間中手びねり体験、ロクロ体験、楽焼の教室を 4 日間開催する。目標利用者数 150 人 ○□三溪園との共催講座を年 1 回開催。目標利用者数 48 人 □週末 3 日間講座『作陶から釉薬掛けまで』を開催する。目標利用者数 100 人	①■一日体験の手びねり絵付け体験講座を実施 台風 19 号による 1 日間、新型コロナウイルス感染症防止による 1 日間、講座開催を中止しました。 ■一日体験電動ロクロ講座を実施 新型コロナウイルス感染症防止による 1 日間、講座開催を中止しました。 ■季節の焼物講座を実施 □伝統釉薬 6 種、粘土 6 種を使用する作品を制作 ■親子陶芸教室の実施 ■陶芸祭期間中の陶芸体験の実施。 ■楽焼茶碗を制作し三溪園茶室でお茶の御点前 ■週末 3 日間講座の実施 新型コロナウイルス感染症防止による 1 日間、講座開催を中止しました。 ■手びねり初級教室を	①●一日体験教室の開催 □手びねり 8 回 (99 人) □電動ロクロ 9 回 (100 人) ●季節の焼き物講座の開催 □開催回数 3 日間 □利用者数 35 人 □伝統古典釉薬講座 □開催回数 6 日間 □利用者数 77 人 ●親子陶芸教室の開催 □開催回数 10 日間 □利用者数 372 人 ●陶芸祭期間中に体験教室を 3 講座開催 □開催回数 4 回 4 日 □利用者数 79 人 ○共催企画の実施 1 回 □利用者数 47 人 ●週末 3 日間講座の開催 □利用者数 102 人 ●手びねり初級教室開催
②基礎教室の開催	□手びねり初級教室を年間 2		

③自律型教室の開催	回、14日開催する。 目標利用者数 210 人 ☐手びねり中級教室を年間 2 回、14 日開催する。 目標利用者数 170 人 ☐電動ロクロ初級教室を年間 2 回、14 日開催する。 目標利用者数 180 人 ☐電動ロクロ中級教室を年間 2 回、14 日開催する。 目標利用者数 170 人 ☐陶芸入門 5 日間講座を年間 1 回、5 日開催する。 目標利用者数 50 人 ☐自由作陶教室を年間 348 日開催。目標利用者数 7,400 人 ☐第 2 自由作陶教室を年間 50 日開催。目標利用者数 1,100 人	実施 ■手びねり中級教室を実施 ■電動ロクロ初級教室の実施 ■電動ロクロ中級教室の実施 ■陶芸入門 5 日間講座の実施 新型コロナウイルス感染症防止による 1 日間、休講 ■自由作陶教室を開講、台風の為 10/12, 10/13 休館、新型コロナウイルス感染症防止による 32 日間、休講 ■第 2 自由作陶教室を開講、新型コロナウイルス感染症防止による 5 日間、休講 ■伝統釉薬一日体験講座の開催。(ア①再掲) ■陶芸祭期間中、電動ロクロ、手びねり、楽焼を開催 ■新聞折込、フェイスブック、ホームページ、情報誌「ぼど」、ヨコハマ・アートナビ WEB、マガカル・ドット・ネット、ミレア WEB 掲載	☐開催回数 2 回 14 日 ☐利用者数 200 人 ●手びねり中級教室開催 ☐開催回数 2 回 14 日 ☐利用者数 148 人 ●電動ロクロ初級教室の開催 ☐開催回数 2 回 14 日 ☐利用者数 193 人 ●電動ロクロ中級教室の開催 ☐開催回数 2 回 14 日 ☐利用者数 130 人 ●陶芸入門 5 日間講座の開催 ☐開催回数 1 回 4 日 ☐利用者数 65 人 ●自由作陶教室の開催 ☐開催日数 314 日 ☐利用者数 6,324 人 ●第 2 自由作陶教室開催 ☐開催日数 45 日 ☐利用者数 991 人 ●伝統釉薬講座開催 ☐開催日数 6 日間 ☐利用者数 77 人 ☐陶芸祭期間中に 4 日間 3 講座を開催(ア①再掲) ☐新聞折込 8 万部(親子陶芸教室) 4 万部(陶芸祭)
	④気軽に陶芸を体験してもらう取組 ☐伝統釉薬を使用する一日作陶体を年 6 回開催(ア①再掲) 目標利用者数 60 人 ☐陶芸祭期間中、事前予約不要の体験講座を 4 日開催(ア①再掲) ☐各種媒体を使用した広報		

⑤次世代育成の取組	□外国人の方向けの広報 □教室内の動線を確保するため、整理整頓を心がける。 □映像による陶芸センター、陶芸技法や作品、陶芸祭、穴窯焼成などの紹介 □低学年を対象とした陶芸解説資料の発布 □手びねりや電動ロクロでの作陶方法を一日体験講座待ち時間において解説動画映像を上映する	広報よこはま「はま情報」 ■一日体験、貸室、自由作陶教室等、陶芸祭作品展、陶アクセサリ組立体験、英語版案内チラシを掲示 ■講座教室電動ロクロの移動 ■DVDでの陶芸技法、陶芸祭、招待作家と作品等の映像 ■実施『日本のやきものを探してみよう！！』を発布 ■実施	□一日体験英語版は年3回更新、貸室・自由作陶教室は年1回更新、陶アクセサリ組立体験年1回 □講座教室電動ロクロの配置換え □一日体験講座の待ち時間での動画の放映50回 □夏休み親子陶芸教室参加者に200部発布 □一日体験講座待ち時間での動画の放映50回
-----------	---	---	---

イ 市民の主体的な作陶活動の支援について

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容]	[達成状況]
●専門技能習得講座としての多くのテーマの講座を企画・実施 ・電動ロクロ水挽き徹底講座 ・絵付け教室 ・チャレンジ講座	□電動ロクロ水挽き徹底講座を年2回、8日間開催 目標利用者数 100人 □絵付け講座を年2回6日間開催。目標利用者数 70人 □一日上絵付け教室を1日間開催 目標利用者数 15人 □チャレンジ講座を年4回20日間開催。 目標利用者数 260人	■実施 ■九谷和絵具での上絵付け講座を実施 ■一日上絵付け教室を一日染付教室に変更し、開催 ■白化粧泥装飾技法、土鍋、透光性陶土を使用した講座を実施、新型コロナウイルス感染症防止による3	●電動ロクロ水挽き徹底講座の開催 □開催日数年2回8日間 □利用者数 111人 ●絵付け教室の開催 □開催日数年2回6日間 □利用者数 51人 ●一日染付教室の開催 □開催日数年1回 □利用者数 9人 ●チャレンジ講座の開催 □年4回17日間開催 □利用者数 127人

・還元焼成講座 ・大物焼成講座 ・楽焼焼成講座、サヤ鉢焼成講座等 ・招待作家講座 ・穴窯焼成講座 ●作陶活動の成果発表の場の提供 ●新講座・実験的講座の開講 ●チャレンジ講座の開講	□還元焼成講座を随時開催 目標利用者数 貸室 250 人 自由作陶教室 450 人 □大物焼成講座を年 12 回開催 目標利用者数 24 人 □絵付け焼成、サヤ鉢焼成、楽焼焼成など各種焼成も別途企画講座に於いて開催 □招待作家講座を年 1 回開催 目標利用者数 20 人 □穴窯焼成講座を開催 目標利用者数 60 人 □陶芸祭での作陶展の作品発表の場の提供 ■週末 3 日間講座を年 3 回 9 日開講 ■陶芸入門 5 日間講座 ■チャレンジ講座を年 4 回 20 日開講	日間、休講 ■貸室・自由作陶教室利用者を対象に随時開催 ■貸室・自由作陶教室利用者を対象に毎月 2 名が大物制作、3 月は新型コロナウイルス感染症防止のため中止 ■楽焼は陶芸祭と三溪園共催講座、サヤ鉢焼成は一日染付け講座で実施 ■星野友幸氏 練継、胴継技法講座 前田正博氏 転写紙上絵付技法講座、新型コロナウイルス感染症防止による 1 日間、休講 ■赤松の確保が困難なため、次年度に変更 ■実施 ■作陶から釉薬掛けまで ■手びねり、電動ロクロ技法による作陶から釉薬掛けまで ■透光性のある陶土で、ランプシェードや器を作成 新型コロナウイルス感染症防止による 3 日間、休講 ■信楽土に粗粒珪長石を混ぜ、陶土の粗さを調整し、器を作成	●還元焼成講座受講者 □貸室 147 人 □自由作陶教室 229 人 ●大物焼成講座 □年 12 回 □利用者数 22 人 ●楽焼・サヤ鉢焼成講座 □楽焼利用者 71 人 □サヤ鉢焼成 9 人 ●招待作家講座 □年 1 回 1 日開催 □利用者数 50 人 ●R2 年度に開催予定 ●利用者発表の場 □作陶展出品者 82 人 対前年比 99% (昨年度 83 人) ●週末 3 日間講座 □年 3 回 □利用者数 102 人(再掲) ●陶芸入門 5 日間講座 □年 1 回 □利用者数 65 人(再掲) ●透光性陶土を使用した講座 □開催回数 1 回 2 日間 □利用者数 18 人 ●陶土作りから始める講座を開催 □開催回数 1 回 5 日間 □利用者数 48 人
--	---	--	---

ウ 市内の公益的作陶活動に対する支援について

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容]	[達成状況]
①陶芸指導者対象 の研修講座の開 催	①●□小中高校や支援学校など陶 芸担当指導者のための研修講座 を年1回開講する。 □目標利用者数 15 人	① □実施	①●指導者研修講座の開催 □開催回数 1 回 1 日 □利用者数 28 人
②公益的作陶活動 に対する情報提 供等や相談対応 等、陶芸知識の 発信による基地 化	②●■小中高校・福祉施設に対し 研修講座の案内の他、作陶活動 に必要な情報や質問に対応し、 研修や電話相談等での陶芸知識 の発信に努める。 ■学校をはじめ作陶活動を行っ ている団体や個人からの、陶芸 技術、窯業機械取り扱い方、メ ンテナンスの相談、および出張 教室等の要望があった場合には 積極的に対応し、陶芸知識の基 地化に努める	②■学童保育に対し団体教室 の案内、招待作家講座のD Mを送りました。 ■市内、県外在住の方から 陶芸素材、成形技法、陶芸 窯、電動ロクロ修理等、相 談等に対応しました。	②□DM 404 通発送 □電動ロクロ修理 2 件 □灯油窯 2 件 □ガス窯 2 件 □電気窯 8 件 □陶芸材料・素材 3 件 □成形技法 6 件 □汚泥、排水処理 2 件
③出張教室・講座 等の対応など陶 芸知識の発信に よる基地化	③■出張教室での対応の難しいケ ースは、陶芸センターでの講座 受入が可能か判断し、積極的に 対応する □団体教室を年 10 件以上実施 する。目標利用者数 300 人	③■出張教室等の相談はあり ませんでした。 ■学童クラブなど手びね りの団体教室を実施 新型コロナウイルス感染 症防止によるキャンセル 2 団体、中止 3 団体	③□出張教室相談 0 件 □団体教室の開催 □開催回数 14 回 □利用者数 242 人

エ 陶芸と市民及び来街者を結びつける場づくりについて

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容]	[達成状況]
①施設の象徴と しての登り窯 の活用	①■登り窯を見学用施設として 活用し、構造や使用方法の解説 文など引き続き掲示	① ■登り窯の構造断面図 を掲示	①■登り窯の構造断面図を 掲示し、より多くの来場 者が登り窯を見学しまし

②近隣地域と連携した取組をおこなうための企画検討 ③陶芸祭で初めて陶芸にふれる来場者のための企画実施 ④施設利用促進のための広報活動・宣伝活動、ホームページや紙媒体の製作の充実 ⑤一般見学者への質問対応や、陶芸ライブラ	■登り窯を施設の象徴的扱いとし、印刷物等で施設紹介する際には、登り窯の写真も掲載。 ② ■陶芸祭を本牧市民公園・三溪園・近隣地域商店会と連携して開催し、ワークショップ等特色ある陶芸祭の企画を検討する。 ③ □陶芸祭での予約なしで出来る「手びねり・電動ロクロ・下絵付け・楽焼」体験の他、アンケート記入による抽選会、お茶の御点前・陶芸作品のバザーなど興味を喚起する企画を実施する。 ④ □SNSを活用して作陶講座等の情報発信をする。 ■すべての講座について募集チラシを作成、館内にて発布する。 □陶芸祭チラシを年1回作成し、新聞折込広告等で情報を発信する。 ■市の刊行物、フリーペーパー、一般紙誌、新聞イベント情報、陶芸誌等のメディアへの情報提供、記事掲載を実施する。 □ホームページの年度切り替えの他、新着情報を月1回以上更新し、最新の情報を案内する。 ⑤■利用者に支障のないよう「一般見学者の団体」も受け入れ、陶芸に関する質問に積極的に対	■今年度も引き続きホームページ上に登り窯の映像をセンター案内動画で紹介。 ②■期間中の三溪園入場割引協定と本牧市民公園陶器市バザーブースへの出展、地域商店会の出展。近隣町内会への陶芸祭折込チラシの発布 ③■予約なしの陶芸体験教室と利用者による作陶展を開催、箸置き他、お茶券等をアンケート回答者の景品として提供し、手づくり抹茶茶碗でのお茶会と利用者による作品バザーを開催しました。 ④■実施 ■実施 ■実施 ■実施 ■実施 ⑤■市内インターナショナルスクール、市外福祉センター陶芸サークルの等、団	た。 □動画再生回数 講座案内 1,433 回 陶磁器の出来るまで 2,664 回 ②□陶芸センターへの来場数4日間2,237人 ③●陶芸祭関連講座（ア①再掲） □開催回数各講座4回 □陶芸体験者 79人 □お茶会利用者150人 □陶芸祭来場者数 4日間2,237人 ④□月平均6回のフェイスブックによる講座作品等の発信。 ■すべての講座・貸室募集チラシを作成と館内掲示。 □陶芸祭のチラシを新聞折込みで4万部発布 ■広報よこはま・神奈川新聞・情報誌「ばど」に陶芸祭の情報を提供。 □新着情報 ホームページの年度切替えと月2回以上の更新 ⑤□一般見学 1,252人 □団体見学8件 37名 □陶芸ライブラリー
---	--	--	---

リー、映像等による詳細な情報、電話やホームページを通じての相談等の情報発信	応し、映像・陶芸ライブラリーによる情報の発信を行う。 ■電話や、お問い合わせフォームで陶芸全般に関する質問に答え対応する。	体見学。 ■市内、県外在住の方から陶芸素材、成形技法、陶芸窯、電動ロクロ修理等、相談等、広範囲の問い合わせに対応しました。	貸出利用者数 51 名 79 冊 ■図書の補充新書 26 冊、図書は、貸出利用だけでなく、作陶活動の参考にする為、施設内でも閲覧可能。 □1 日平均閲覧者数 3 名 ■陶芸についての相談（ウ②再掲） □電動ロクロ修理 2 件 □灯油窯 2 件 □ガス窯 2 件 □電気窯 8 件 □陶芸材料・素材 3 件 □成形技法 6 件 □汚泥、排水処理 2 件
---------------------------------------	---	---	--

オ 陶芸センターに関する情報提供及び広報・プロモーション

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容]	[達成状況]
①Webサイトによる施設案内	① ■ヨコハマアートナビなどのwebサイトに講座スケジュールの掲載を依頼するほか、陶芸関係のwebサイトにリンクを貼れるよう積極的に調整する。 ■ホームページ上のギャラリーを充実させ、陶芸祭人気作品、招待作家講座の画像をアップする。	①■実施	①□フェイスブックによるフォロワー数 132 人 □ヨコハマアートナビ
②陶芸関係サイト等を活用した広報	②■陶芸ネットコムなどの関連サイトのほか、無料の全国規模の習い事サイトなどにも情報を提供する。	②■実施	□招待作家講座、陶芸祭の動画をDVD化し、センター内で放映。 ②□無料webサイト □ミレア WEB □マグカル・ドット・ネット
③陶芸センターの知名度アップ	③■毎年開催される陶芸祭、隔年開催の『全国公募横浜アマチュア陶芸展』を通して近隣地区・全国に向けて知名度を上げる。	③■実施	③□陶芸祭を4日間開催。 □取材撮影に講座教室、

④外国の方向けの 情報発信方 法の検討	■メディアの取材・撮影には積極的に対応する。 ④■日本に在留する作陶希望の方のために、1 日体験や他の講座受付の為の英語版のチラシや、パンフレットを作成しセンター内に常設する（とともにホームページに掲載します）。 ■作陶経験が多少ある外国人を対象に、英語で受講できる自由作陶教室があることをお知らせする。	■実施 ④■市内、国際交流ラウンジへ、英語版チラシ（一日体験、陶アクセサリ組立体験）等、チラシを配布 ■実施	陶芸材料、陶芸指導協力。 ④□1 日体験英語版は3ヶ月ごとに更新、貸室・自由作陶教室・陶芸祭一日体験英語版は年1回作成、陶アクセサリ組立体験1回作成 □自由作陶教室受講20人
------------------------------------	---	---	--

（２）施設運営について

ア 作陶活動のための施設の提供について

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容]	[達成状況]								
①適切な施設開館及び施設の貸出	①□開館について <table><tr><td>開館日数</td><td>355 日</td></tr><tr><td>開館時間</td><td>9 時～17 時</td></tr></table> □休館日：清掃・空調機点検 2 日、電気点検 1 日、年末年始 6 日、臨時休館 2 日 ■開館時間、休館日については、館内掲示やホームページ等で周知を図る。	開館日数	355 日	開館時間	9 時～17 時	①□353 日間開館しました。	①□開館日数 353 日				
開館日数	355 日										
開館時間	9 時～17 時										
②公園条例に基づいた利用料金の徴収	②□利用料金について <table><tr><td></td><td>午 前</td><td>午 後</td><td>一 日</td></tr><tr><td>陶 芸 成 形 室</td><td>500 円</td><td>500 円</td><td>1,000 円</td></tr></table> □焼成料(酸化焼成)は、焼成する前の粘土 100 g までごとに 150 円		午 前	午 後	一 日	陶 芸 成 形 室	500 円	500 円	1,000 円	台風により 2 日休館 定期清掃・空調機点検、電機点検で 3 日間、年末年始 6 日間、臨時休館 2 日	□休館日 13 日
	午 前	午 後	一 日								
陶 芸 成 形 室	500 円	500 円	1,000 円								
③各種講座・新規利用者・貸	③■新規利用者及び長期利用者が初めて体験する講座からステッ	■実施	■館内掲示、ホームページ、フェイスブック、電話連絡で周知								
		②□計画通り実行し、適切な料金設定と徴収を行いました。	②□貸室利用料金 午前 午後各 500 円 一日 1,000 円 □酸化焼成料 100 g ごとに 150 円								
		③□伝統古典釉薬を使用する一日体験講座を開催。	③□伝統古典釉薬講座 6 日間開催								

室の利用率増加のための工夫	プアップして次の講座へ興味を持って進めるよう、講座のテーマ、釉薬、使用する土など工夫する。 □貸室での欠席振替を利用期間内（12回）に消化する事により利用率を上げる。 □目標利用者数：5400人 稼働率 100%	□透光性陶土、アクセサリ講座をそれぞれ開催。 ■欠席予定日をできるだけ事前連絡してもらいスムーズな振替を実施。 □陶芸祭4日間、陶芸祭準備の2日間、片付け1日間、通常稼働なし。	□透光性陶土の講座 2日間開催 ■貸室での届出欠席振替を1年間実施。 □利用料状況等について（稼働率は、日にち単位） ・貸室 利用日数 314日 利用可能日数 348日 稼働率 90% 利用者数 4,811人
----------------------	---	---	--

イ 利用者ニーズの把握及び利用者サービスの向上、アイディアノウハウの一層の活用

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容]	[達成状況]
①アンケートを活用した利用者サービスと利用促進	①■すべての講座の利用者に対しアンケートを実施し、満足度及び利用者ニーズ等を把握し、今後の運営に反映させる。 ■自主事業講座アンケート集計	① ■新釉薬3種類（トルコ釉、アメ釉、茶そば釉、白マット釉）の導入。 透明釉の入れ替え（新透明釉から1号透明釉に入れ替え） ■実施	①□講座教室、自由作陶教室、貸室にて使用 □すべての講座についてのアンケート調査実施（回収数508通） ・教室内容満足度98%（満足90%やや満足8%） ・建物設備満足度94%（満足84%やや満足10%） ・スタッフ満足度98%（満足94%やや満足4%）
②利用者への配慮をしながら可能な限りの施設見学の受け入れ	②■利用者に支障のない範囲で「一般見学者の団体」も受け入れる。 ■穴窯焼成講座（隔年）など離れた場所での団体見学の受け入れ	②■実施 ■令和元年度は薪不足のため次年度へ変更	②□団体見学8団体37名（再掲載） □一般見学者1,252名 ■令和元年度は薪不足のため次年度へ変更

③施設スペースの有効利用方法等の検討	③■講座教室内の整理整頓による動線の確保 ■釉薬掛けスペースの改善 ■不良在庫等の廃棄による収納スペースの確保。 ■粘土保管スペースの上部拡張の検討	③■実施 ■実施 ■実施 ■実施	③■電動ロクロの配置換えを実施し、講座教室の動線確保 ■大型釉薬バケツを中型バケツに交換し、スペースの確保 ■劣化釉薬バケツの廃棄 ■粘土保管庫の整理整頓によるスペースの拡張
--------------------	---	---------------------------------------	--

ウ 組織的な施設運営について

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容]	[達成状況]																					
①適切な運営組織体制と人材の配置（毎日2名以上の勤務体制）	①□人材の配置について <table><tr><td>項目</td><td>人数</td><td>備考</td></tr><tr><td>センター長</td><td>1人</td><td>全体総括</td></tr><tr><td>所長</td><td>1人</td><td>事業・運営・管理業務責任者 個人情報管理責任者兼務</td></tr><tr><td>副所長</td><td>1人</td><td>講師・貸室アドバイザー・事務総括</td></tr><tr><td>事務員</td><td>3人</td><td>ローテーション勤務</td></tr><tr><td>講師</td><td>10人</td><td>ローテーション勤務</td></tr><tr><td>貸室アドバイザー、助手</td><td>7人</td><td>一部講師、助手兼務、ローテーション勤務</td></tr></table>	項目	人数	備考	センター長	1人	全体総括	所長	1人	事業・運営・管理業務責任者 個人情報管理責任者兼務	副所長	1人	講師・貸室アドバイザー・事務総括	事務員	3人	ローテーション勤務	講師	10人	ローテーション勤務	貸室アドバイザー、助手	7人	一部講師、助手兼務、ローテーション勤務	① □事務員2名増のため、勤務ローテーションを組み立てなおし事業に支障なく施設運営を行いました。	① □事務員4人に変更
項目	人数	備考																						
センター長	1人	全体総括																						
所長	1人	事業・運営・管理業務責任者 個人情報管理責任者兼務																						
副所長	1人	講師・貸室アドバイザー・事務総括																						
事務員	3人	ローテーション勤務																						
講師	10人	ローテーション勤務																						
貸室アドバイザー、助手	7人	一部講師、助手兼務、ローテーション勤務																						

		務		
②適切かつ効果的な勤務体制の確立	②□勤務体制について センター長は月 3 日その他随時必要時、所長は週 4～5 日出勤。 各講座指導部門では、講師、貸室アドバイザー、助手をローテーション勤務とし、講座運営に支障のないようにする。事務部門では、毎日 2 人以上のローテーション勤務体制とする。 ■職務分担表の作成、徹底により、効率的な業務遂行を行う。	②□副所長は週 5 日、講座担当は年 5 日間 □一週間ごとの焼成スケジュール、一ヶ月ごとの勤務スケジュールの作成	②■職務分担に沿って、適切な職務遂行を達成しました。 ■実施	

エ 個人情報保護等、本市の重要政策を踏まえた取組

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容]	[達成状況]
①個人情報保護・情報公開、人権尊重、環境への配慮、市内中小企業優先発注等の取組の実施	①■法令、条例及び規則を遵守し、利用者の個人情報の取り扱いを適正に行い、事故のないように努める。 ■改元に伴う情報システム改修等について対応する ■マイナンバーの個人情報漏えい防止の為、組織的・人的・物理的・技術的安全管理処置を講じる ■横浜市の障害者差別解消法の指針に従い差別解消を推進する。 ■情報公開規程にのっとり、情報開示請求等に対し、適切に対応する。 ■人権の尊重について、職員に対し人権に関する研修を年 1 回実施する。 ■管理・運営上の近隣への迷惑行為には充分留意し、対策を講じる。	①■計画通り、法令の遵守と個人情報保護への取り組みを行いました。 ■実施 ■マイナンバーを本社総務部での一括管理により、安全管理処置を講じました。 ■障害者差別解消法の研修を実施しました。 ■情報開示請求等はありませんでした。 ■人権研修を実施しました。 ■近隣への配慮を行い、適宜、本牧市民公園との連絡調整を行いました。	①■実施 個人情報の保管 施錠管理、研修 パスワードでの情報管理 ■実施 ■実施 マイナンバーマニュアルの研修 本社での施錠管理 □年 1 回実施 □対応案件 0 件 □年 1 回実施 ■実施

	■ 横浜市中企業振興基本条例を批准し、物品及び修繕などの優先発注に努める。	■ 可能な物品、修繕案件については、優先発注に努めました。	■ 実施
--	--	--------------------------------------	-------------

(3) 施設管理について

ア 施設及び設備の維持保全及び管理、公園管理

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容]	[達成状況]
①施設の安全・安心・快適環境維持と長寿命化対応の実施	①□毎日の清掃業務と年2回の定期清掃を行う。 ■管理標準チェックリストによる記録と快適環境維持 ■施設設備の日常点検と、早めの自前小破修繕による高額修繕費支出の回避。	① 実施 ■実施 ■施設設備等の異常箇所等の毎日の見回り点検。	①□休館日を除く毎日清掃と年2回の定期清掃の実施 ■毎日の管理標準チェックリストの記録 □土練機修理1件 □電動ロクロの修理2件 □電気窯色見栓修理1件 □天井剥がれ修繕（横浜市による）1件
②保守点検、備品管理、環境維持の実施	②□空調機器定期点検を年2回行う。 ■給排水設備点検を随時行う。 □電気設備点検を毎月行う。 □ガス設備点検を毎月行う。 □消防設備点検を年2回行う。 □窯業機器・機械の機能点検を毎月、保守点検を年1回行う。 ■粘土や釉薬を直接下水に流さず、下洗い箱を設け一度沈殿させたうえ、上水だけを流すよう毎日の作業として徹底する。 □排水溝、桝の掃除を年2回実施し、汚泥量を記録するとともに、適切に汚泥処理をする。	②■実施 ■水道栓ノブの交換と排水桝・排水溝の泥の排出 ■実施 ■実施 ■非常警報設備と消火設備、非難経路表示表の点検 ■実施 ■実施 ■実施	②□空調機定期点検年2回 □排水桝からの泥の排出 年2回 ■毎月実施 ■毎月実施 □非常警報設備の点検 年2回 □毎月の陶芸窯機能点検と年1回の定期保守点検の実施 ■毎日の実施 □年2回の排水溝・排水桝の清掃と処理
③公園の管理区域内的環境維持、	③■建物周辺的美観維持の為、草刈、屋根の松葉清掃等、適時手	③■実施	③□外登り窯敷地内草取り 年11回実施、台風後の屋

公園管理者との 連絡調整	入れをする。 ■ 本牧市民公園と電気点検・工事・修繕他による車両の出入りの連絡調整をする。	■ ゴミ・古紙・産廃のルート回収・自動販売機飲料の入替・電気・空調機点検・定期清掃車両等の公園内通行許可証の発行	根松葉掃除年 5 回実施 ■ 実施
-----------------	---	---	-----------------------------

イ 小破修繕の着実な実行について

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容]	[達成状況]
①小破修繕の取組	① ■ 毎日見回り点検により、早めの直営修繕を行い、高額修繕に至らない様、適切な維持管理を行う。 ■ 修繕用交換部品をメーカーから直接購入し、自前修繕による工賃・修理費のコスト削減を図る	① ☐ 電動ロクロ修理 ☐ 土練機修理 ☐ 雨樋修理 ☐ 門修理 ☐ 事務所扉修理 ☐ 水道栓の交換修理 ■ 水道交換部品、電動ロクロ交換部品、	① ☐ 直営修繕 年間 16 件 早めの修繕 9 件 ☐ 部品取寄せ直営修繕 年間 7 件

ウ 事故予防及び緊急時の対応

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容]	[達成状況]
①事故防止体制・防犯・緊急時の対応・感染症対策等衛生管理の実施	① ☐ 事故発生に備え緊急連絡網を整備し、横浜市へ現場対応・状況を報告する。AED の操作研修を年 2 回行う。 ■ 陶芸センターの警備業務一覧（巡回警備・非常事態発生時の処置等）をスタッフ全員での共通業務として認識し行動する。 ■ 日常の見回り点検や、スタッフ、利用者からの危険箇所の指摘を事故防止体制に活かす。 ■ 感染症対策として、液体消毒石鹸とアルコール設置による除菌対策をし、ノロウイルス対策として嘔吐物処理行程をマニユ	① ■ 緊急連絡網の整備 ☐ A E D 研修年 2 回 ■ 実施 ■ 実施 ■ 実施	① ■ 緊急対応マニュアルに従って対応し、横浜市へ現場対応・状況を報告しました。 ■ 実施 ■ 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、アルコール消毒液設置、スタッフのマスク着用、換

	アル化し、スタッフ全員で共有する。 ■ Dengue 熱・ジカ熱の蚊対策として水溜りを除去するほか、野鳥の死骸発見時には保健所と横浜市への通報・連絡を徹底する。 ■ 施設の保安警備業務は警備会社に委託し、24 時間警備を行う。	■ 実施 ■ 実施	気、ドアノブ毎日 2 回以上消毒、予防ポスターにて周知しました。 ■ 実施 ■ 委託警備業者による 24 時間機械警備の実施
--	--	-------------------------	---

エ 防災に対する取組

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容]	[達成状況]
① 日常の取組、危機管理マニュアルの整備、防火・防災の取組、災害備蓄等の実施	① ■ 防災に備え緊急連絡網を常備し、緊急時は横浜市へ現場対応・状況を報告する。 □ スタッフ、利用者も含めた防災避難訓練を年 2 回実施する。 ■ 陶芸窯の焼成について、スタッフの安全教育、防火管理を徹底する。 □ 防災用品を備蓄し、期限切れの食品等が無いように年 2 回確認・更新する。	① 計画通り、防災等への適切な対応ができました。非難訓練では、利用者の方にも協力してもらい、利用者、スタッフ全員参加で行い、AED の取り扱い説明会も行いました。 ■ 陶芸窯のマニュアルと窯周辺の可燃物に対する注意の喚起。 □ 飲料水、固形糖類、食品を 2 回更新 □ 防寒用保温剤の追加備蓄	① ■ 防災マニュアル、緊急連絡網の確認、徹底 □ 非難訓練を年 2 回実施（6 月、1 月） ■ 陶芸窯焼成の安全マニュアル教育、防火管理の徹底、1 年間無事故達成 ■ 飲料水、固形食品の更新 年 2 回 ■ 防災用品と救急用品の追加 年 2 回

オ その他管理に関する事項

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容]	[達成状況]
① 廃棄物の抑制と適正な処理	① ■ 使用済み粘土、削りかす粘土、使用済釉薬は、出来るだけ再利用するため分別回収箱を設けるなど、毎日適切に管理する。 ■ 再生を基本とし、廃棄物を最小限に抑える努力し、再生できないものは、ルート回収にて適正に廃棄する。	① ■ 実施 ■ 実施	① ■ 粘土釉薬の再生のため分別回収を毎日徹底 ■ 産業廃棄物の毎月管理ルート回収による適正な廃棄

(4) 収支について

ア適切な収支構造及び収支バランス

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容]	[達成状況]
適切な収支構造及び収支バランス	①■収益の改善と固定経費の改善努力 ■陶芸材料の在庫管理と計画仕入れの努力 ■突然の高額修繕に備えた、日常点検による劣化箇所の把握 ■利用増加が見込まれる新規講座の企画 ■四半期表による収支の予測	①■陶芸用小道具の一部値上げ ■実施 ■実施 ■参加が見込まれる講座 ■招待作家講座 ○三溪園共催楽茶碗 ■実施	①■カタログ外取寄せ商品の値上げ ■毎月の計画仕入と在庫管理の徹底 ■実施 □各講座利用率 招待作家講座 116% 三溪園共催 98% □年4回

イ 指定管理料のみに依存しない収支構造の検討について

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容]	[達成状況]
①指定管理料のみに依存しない収入確保の取組	①■自主事業の受講者を効率的に獲得し受講率を高めることにより、事業収入の増収を図る。 ■新規講座を企画検討し、利用料増収を図る。 ■陶芸センター独自グッズの開発、販売に向けて、実現の可能性を探る。	①■アンケート調査や意見・要望から講座や、材料その他の設備の改良を行いました。 ■実施（再掲（4）ア） ■海外からの観光客に向けて、陶磁器お土産グッズ、アクセサリーの組立体験の実施	①■新釉薬の導入 ■新講座の開講 ■新釉薬導入に向けてのアンケート調査 ■収入の見込める新講座 ■陶芸入門5日間講座 ■招待作家講座 ○三溪園共催楽茶碗 ■陶磁器お土産グッズ、アクセサリー組立体験・英語対応テキスト作成、実施

ウ 経費削減及び効率的運営努力について

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容]	[達成状況]
①経費削減等効果的運営の取組	①■消耗品、事務用品の節約による事務経費の削減に努める。利	①■計画通り経費削減に努めました。	①□事業費実績 15,657 千円（対予算比 87%）

	用者からの寄贈による古新聞・古布等を再利用する。 ■陶芸材料の輸送コスト削減の為、販売元から直接引き取り搬入し、輸送コストの削減を図る。 ■液化燃料（灯油）は直接購入し経費削減を図る。 ■教室運営にかかわる補助的作業や修繕について、出来る範囲のものは職員の自前作業により、経費抑制を図る。	■陶芸材料とメンテナンス用部品を直接仕入れ経費を削減しました。 ■液化燃料を配達から直接買い入れることによる経費の削減。 ■職員の自前修繕により経費抑制を図りました。	□事務費実績 5,722 千円（対予算比 89%） ■実施 □年間 128,000 円の削減 ■実施
--	--	--	--

（５）PDCAサイクルの確実な運用

ア 日報及び月間事業報告書の作成・管理について

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容]	[達成状況]
①日報、月間事業報告書の作成と管理	①■日報、月報を作成・管理する。 ■日常業務の中でPDCAサイクルを推進することにより、短いサイクルでの早い対応ができるよう、努力する。	①■計画通り、日報、月報の作成と管理を行い、PDCAサイクルの推進により素早い対応をこころがけました。	①■日報、月報の作成官理 ■センター利用者のアンケートの集計による対応。

イ 業務計画及び業務報告書の作成・管理について

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容]	[達成状況]
①業務計画書、業務報告書の作成と管理	①■業務計画書及び業務報告書について、定められた様式に沿って作成、管理を行う。	① ■計画通り、業務計画書、業務報告書、の作成と管理を行いました。	①■業務計画書、業務報告書の作成と管理

ウー１ 業務評価（モニタリングの実施）について

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容]	[達成状況]
①モニタリングの実施による業務評価	①■モニタリングにおいて、利用状況、施設管理状況、問い合わせ・苦情等、毎月の管理運営状況について報告する	① ■計画通り、モニタリングの実施による業務評価を行いました。	①■利用状況、施設管理状況問い合わせ・苦情等、毎月の管理運営状況を報告

ウー 2 業務評価（自己評価の実施）について

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容]	[達成状況]
①自己評価の実施による業務評価	①■業務実績及び利用者の満足度や意見を基に、自己評価を行い、以降の業務改善につながるよう努める。	①■計画通り、自己評価の実施による業務評価を行いました。	①■業務実績及び利用者の満足度や意見を基に、自己評価を実施。

ウー 3 業務評価（第三者による評価の実施）について

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容]	[達成状況]
①第三者評価の実施による業務評価	①■業務評価にあたり、外部評価委員会による第三者評価が実施される場合は、横浜市の指示に従い対応する。	① ■令和元年度は実施されませんでした。	

（6）その他について

ア 保険及び損害賠償の取り扱いについて

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容]	[達成状況]
①保険の加入と損害賠償への対応	①■賠償責任保険、動産総合保険、レジャー・サービス費用保険に加入し、契約書および保険証書の写しを市に提出する。	① ■計画通り、保険の加入により損害賠償への備えを整えました。	①■賠償責任保険、動産総合保険、レジャー・サービス費用保険に加入。

イ 関係法令の遵守

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容]	[達成状況]
①法令の遵守と個人情報保護への取組	①■法令、条例及び規則を遵守し、利用者の個人情報の取扱を適正に行い、事故のないように努める。	①■計画通り、法令の遵守と個人情報保護への取組を行いました。	①■法令、条例及び規則の遵守、利用者の個人情報の適正な取扱。
②マイナンバー制度への取組	②■マイナンバーの個人情報漏えい防止の為、組織的・人的・物理的・技術的安全管理処置を講じる。	②■本社総務課で一括管理	②■本社でのパスワードによる管理

ウ 市及び関係機関等との連絡調整

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容]	[達成状況]
①市及び関係機関	①■月次モニタリングにて業務の	①■計画通り、市及び関係機	①■月次モニタリングでの

との連絡調整	報告、確認を行うが、重要な案件、緊急な案件については、随時市に報告・協議し、円滑な業務遂行を目指す。	関との連絡調整を行いました。	業務の報告、確認の他、随時市に報告、協議し、円滑な業務遂行
--------	--	----------------	-------------------------------

エ その他

[取組内容] ①情報公開への積極的取組	[達成指標] ①■情報公開規程にのっとり、情報開示請求等に対し、適切に対応する。 ■業務計画書、業務報告書をはじめ、施設運営情報等をホームページで公開していく。	[実施内容] ①■実施 ■横浜市のサイトで実施	[達成状況] ①□開示請求は0件 ■業務計画書・報告書は横浜市のサイトで公開
-----------------------------------	---	--	---

令和元年度 「横浜市陶芸センター」 収支予算書及び報告書

収入の部

(税込、単位：円)

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
指定管理料	18,636,000	212,000	18,848,000	18,848,000	0	横浜市より
利用料金収入	4,200,000		4,200,000	4,293,800	△ 93,800	貸室利用料・貸室焼成費
自主事業（指定管理料充当の自主事業）収入			0		0	
自主事業収入	18,750,000	2,089,000	20,839,000	19,458,931	1,380,069	自主事業講座料・自主事業焼成費、教室・貸室粘土代
横浜市費用負担			0	1,360,000	△ 1,360,000	新型コロナウイルス感染症に関する横浜市の費用負担
雑入	650,000	500,000	1,150,000	806,020	343,980	
印刷代	6,000	△ 2,000	4,000	1,650	2,350	コピー代金
自動販売機手数料	147,000	△ 11,000	136,000	117,710	18,290	自動販売機手数料
駐車場利用料収入			0		0	
その他	497,000	513,000	1,010,000	686,660	323,340	陶芸祭売上・作品出品料・受取利息・陶芸材料売上・ルート回集古紙収入
収入合計	42,236,000	2,801,000	45,037,000	44,766,751	270,249	

支出の部

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
人件費	11,820,000	2,994,000	14,814,000	15,012,383	△ 198,383	
給与・賃金	10,170,000	2,830,000	13,000,000	13,293,041	△ 293,041	給与・賃金
社会保険料	930,000	270,000	1,200,000	1,235,537	△ 35,537	社会保険・雇用保険
通勤手当	700,000	△ 136,000	564,000	391,984	172,016	通勤費
健康診断費・福利厚生	20,000	30,000	50,000	91,821	△ 41,821	健康診断費（協会健保）
勤労者福祉共済掛金	0		0	0	0	
退職給付引当金繰入額	0		0	0	0	
事務費	3,614,640	△ 228,000	3,386,640	3,387,482	△ 842	
旅費	30,000		30,000	25,854	4,146	出張交通費
消耗品費	200,000	△ 50,000	150,000	233,850	△ 83,850	ガムテープ・フネトフィルム・ホリ袋・レジロール・鉛筆・ファクス用紙他・フアイルケー
会議贈い費	50,000		50,000	60,750	△ 10,750	全体会議贈費他
印刷製本費	861,000	△ 229,000	632,000	1,352,016	△ 720,016	講座パンフレット・チラシ・案内ハガキ・広告宣伝費
通信費	500,000	△ 200,000	300,000	360,562	△ 60,562	電話料金・メール便・郵便料金・切手・ハガキ代金・DM送料
使用料及び賃借料	500,000	135,000	635,000	396,504	238,496	
横浜市への支払分	100,000	70,000	170,000	180,504	△ 10,504	ゴミゼロルート回収費・目的外使用料（自動販売機・小道具ショークス）
その他	400,000	65,000	465,000	216,000	249,000	駐車場契約料
備品購入費	500,000		500,000	24,834	475,166	電機ストープ・電子レンジ・コンプレッサー
図書購入費	70,000	△ 30,000	40,000	13,000	27,000	陶芸ライブラリー用陶芸図書購入費
施設賠償責任保険	13,640	46,000	59,640	58,704	936	施設管理者賠償責任保険・動産総合保険・レジャーサービス費用保健
職員等研修費	20,000		20,000	10,780	9,220	テキスト代・陶芸教材代
振込手数料	50,000	50,000	100,000	55,344	44,656	銀行支払い振り込み手数料
リース料	600,000	50,000	650,000	314,526	335,474	電動ロクロ・小型電機窯・コピー機・印刷機リース料
手数料	220,000		220,000	480,758	△ 260,758	ホームページドメイン管理・会計ソフトサポート料
地域協力費	0		0	0	0	必要に応じて支出
事業費	18,750,000	△ 798,000	17,952,000	15,657,219	2,294,781	
自主事業（指定管理料充当の自主事業）費	0		0	0	0	
自主事業費	18,750,000	△ 798,000	17,952,000	15,657,219	2,294,781	陶芸材料仕入れ・業務委託料
管理費	5,051,110	792,990	5,844,100	5,355,319	488,781	
光熱水費	1,980,000	△ 130,000	1,850,000	1,672,178	177,822	
電気料金	1,100,000	130,000	1,230,000	1,115,045	114,955	三相・200V、単相・100V電気料金
ガス料金・灯油料金	380,000	△ 170,000	210,000	186,936	23,064	プロパンガス・灯油窯用灯油代金
水道料金	500,000	△ 90,000	410,000	370,197	39,803	上下水道料金
清掃費	2,150,000	△ 50,000	2,100,000	2,080,446	19,554	日常清掃（毎日）・定期清掃（年2回）
修繕費	200,000	315,000	515,000	228,137	286,863	LED取り付け・アルミスライドドア修理・電動ロクロ部品代・電気配線部品
機械警備費	390,000	40,000	430,000	390,380	39,620	開館時以外常時機械警備（366日）
設備保全費	331,110	617,990	949,100	984,178	△ 35,078	
空調衛生設備保守	210,000	495,000	705,000	735,210	△ 30,210	定期保守点検（年2回）・室内送風機洗浄他
消防設備保守	10,000	77,000	87,000	87,260	△ 260	消防設備点検（年2回）
電気設備保守	102,600	47,400	150,000	137,500	12,500	電気炉・灯油窯他保守点検（年1回）電気設備取付・保守
害虫駆除清掃保守	2,000	2,500	4,500	8,368	△ 3,868	蚊用殺虫剤・清掃用具・除菌アルコール
駐車場設備保全費	0		0	0	0	
その他保全費	6,510	△ 3,910	2,600	15,840	△ 13,240	防犯ステッカー・スコープ・ペンキ・軍手・養生テープ
共益費	0		0	0	0	必要に応じて支出
公租公課	2,500,250	40,010	2,540,260	1,409,808	1,130,452	
事業所税	0		0		0	事業所床面積と従業員数が標準に満たないため
消費税	2,500,000	40,000	2,540,000	1,409,400	1,130,600	実績に基づく試算
印紙税	0		0	400	△ 400	実績に基づく試算
その他（ ）	250	10	260	8	252	受取利息からの納税分（国税）
事務経費（計算根拠を説明欄に記載）	500,000	0	500,000	924,851	△ 424,851	
本部分	90,000		90,000	180,000	△ 90,000	本社労務管理費等
当該施設分	410,000		410,000	744,851	△ 334,851	陶芸祭用各種備品他・事務用品費・防災用品・会議費・その他
二一ス対応費	0		0		0	
支出合計	42,236,000	2,801,000	45,037,000	41,747,062	3,289,938	
差引	0	0	0	3,019,689	△ 3,019,689	

自主事業費収入				19,458,931		
自主事業費支出				15,657,219		
自主事業収支	0			3,801,712		
管理許可・目的外使用許可収入				804,370		陶芸用小道具売上・自動販売機売上手数料
管理許可・目的外使用許可支出				180,504		陶芸材料支払い分・賃借料・ゴミゼロルート回収費
管理許可・目的外使用許可収支				623,866		